



日本舞踊の教室には毎週通っている。医師の夢も踊りも「人を元気にしたい」と思う気持ちが原動力

「将来は地元に戻ってき  
て、お世話になった人に恩  
返しをしたい」。踊る女医  
さん。20年後、そんな名物  
医師が、患者だけでなく、  
このまちも元気にしてくれ  
ているに違いない。

いつも家族がいる居間で勉強を  
する万葉さん。「初音ミク」や「西  
野カナ」などの曲を聞きながら  
宿題をする。息抜きはゲームと、  
今どきの中学生だ



コミカルな踊りとはじけ  
る笑顔で、市内各地に元氣  
を届ける中学生がいる。榎  
田万葉さん13歳。大好きな  
日本舞踊を福祉施設やイベ  
ントなどで披露しながら、  
医師という将来の夢をか  
えるため、日々勉強にいそ  
しんでいる。

所作が求められる日本舞  
踊。しかし、彼女の人好き  
な性格は、ついつい満面の  
笑みとして出てしまう。そ  
んな彼女にもピッタリな踊  
りがあるのも、日本舞踊の  
奥深さ。頬紅を濃くした笑  
いを誘う化粧と踊りが特徴  
の熊本民謡「おもてやん」  
がそうだ。「見てくれてい  
る人の手拍子や笑顔が見え  
て、大好き」と目を輝かす。

見て、家族に「獣医になる」  
と話したという。  
将来の夢を決定的にした  
のは、脳梗塞で大好きな祖  
父が倒れたとき。外で倒れ  
ていた祖父を見つけた人か  
ら連絡があり、家族で現場  
に駆け付けた。祖父の意識  
ははっきりしていたが、半  
身が麻痺した状態に。すぐ  
にかかりつけの病院に運ん  
だ。「今夜が山」と言われ、  
まだ小学3年生だった彼女  
は、祈るような気持ちで治  
療が終わるのを待ち続け  
た。そして、祖父は、無事、  
一命を取り留めた。

み、感謝の気持ちを伝えるに  
回った。「自分も人の命を  
助けるお医者さんになりた  
い」。そう誓った。  
現在は、泉ヶ丘高校附属  
中学校に通っている。負け  
ず嫌いな性格で、成績は常  
に学年で上位。とはいえ、  
医師になることは、簡単な  
道ではない。大学受験で最  
難関とされる医学部受験を  
突破しなければならぬ。  
しかし「夢は大きく」が、  
親子の合い言葉。「目標は  
国立医学部」と意気込んで  
いる。その夢をひたむきに  
追いかける姿と明るい性格  
は、母珠美さんにも影響を  
与えている。珠美さんは今、  
看護学校の1年生。「お医  
者さんと看護師として一緒  
に働けるといいね、と親子  
で話しています」と2人は  
笑顔で顔を合わせた。

# 将来は、患者さんの心も癒せる お医者さんになりたい



目指すは「医師」。  
福祉施設などに  
日本舞踊を届ける中学生  
えのきだ かず は  
榎田万葉さん